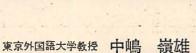
*非毛沢東化*を進める中国にとって鄧小平 (右)の『文選』は実務のお手本である



の鄧小平ブームがつくられてされて以来、中国では、一種 社から『鄧小平文選』が発売 創立記念日に北京の人民出版 去る七月一日の中国共産党 ・鄧小平文選」と 毛沢東選集』







『人民日報』が連日、

語録』にも大幅に収録され に初めて公表され、『毛主席 五日には、 調話が、文化大革命の開幕期 ば、かつて毛沢東が同会議で 上で大々的に報じられた。 会議の決定が『人民日報』紙 するための建国の大網」だと する中国共産党全国宣伝工作 九五七年三月におこなった 中国独自の社会主義を建設 しかも、その前日の七月二 全国宣伝工作会議といえ

編の文章を今日の時代の軍隊 ならず、軍の有力者も一斉に だと絶談した。 建設にかんする「重要思想」 里・人民解放軍総政治部主任 日付『解放軍報』では、余秋 掲げたのに次いで、七月二六 隊司令官の鄧小平礼讃論文を 献」と題する李徳生・瀋陽部 鄧小平をたたえはじめた。 きなページをさいているのみ が『鄧小平文選』のなかの一〇 小平文選』の紹介や解説に大 七月四日付の『人民日報』 「偉大な転換、卓越した百

『鄧小平文選』を

は、一九五七年までを扱った 進」・人民公社政策や文化大 日、一九五七年以降の「大躍 は、まさに現在の時代を語っ いのに、『鄧小平文選』のほう れて以後、統刊の気配さえな 第五巻が華国鋒時代に刊行さ れてきた『毛沢東選集』のほう て光彩を放っている。 非毛沢東化が進捗中の今 同じ人民出版社から刊行さ

業発展の過程での基本的問題 であり、「わが国の社会主義事 辞もそれなりにうなずける。 を正しく解決した」(李琦論文 の「四つの現代化」の時代に や談話から成っていて、今日 でにおとなった四七編の演説 が一九七五年から昨年九月ま 『人民日報』七月一日)との讃 ふさわしい内容のものばかり 読したが、それは、 私も最近、 なったものである。 文革の網領的文書の 『鄧小平文選』を 、鄧小平 だが、同時に、

を位置づけようとしている。 生成といったカリスマ化をあ 平としては、「鄧小平思想」の にも多いのは当然であろう。 国内部はもとより、 では毛沢東万歳と同じではな ると、「これは危ない。これ くも大々的に礼談されるとな だとされた鄧小平の論者がか 東時代には、「反革命分子」 の手本として『鄧小平文選』 くまでも排し、もっぱら実務 れている。それだけに、鄧小 り返し、ついに今日にいたっ 政治に身をさらして浮沈を繰 いうまでもない。激動の中国 が、鄧小平自身であることも もっとも、強く抱いているの いか」と将来を危ぶむ声が中 び逆転する危険を誰よりも恐 の死後に中国の政治状況が再 た鄧小平は、いま、みずから そして、そのような危惧を 外部世界

重視されるはずはなく、 革命に関する毛沢東の著作が て『毛沢東選集』はおそらく当

、従っ

58. 8. 13

しようとしているのだ。 端にいたる非毛沢東化に着手 での整風運動、つまり地方末 いよ本格化する全中国的規模

との手本をかざして、いと

週刊 東洋経済

カリスマ化は排す

58

未完成のままであろう。

かつて毛沢